

第5節 学校保健

ポイント

現状と課題

- ・裸眼視力1.0未満の児童生徒は増加している。
- ・肥満傾向の児童生徒数は、高等学校の男子で増加している。
- ・う歯の被患率は減少しているが、さらに減少させる取組が必要である。
- ・アトピー性皮膚炎の児童生徒は増加している。
- ・保健室登校の児童生徒は小学校で増加している。
- ・中学生、高校生に毎日喫煙する生徒等がいるため、喫煙を防止する教育等に今後も取り組む必要がある。
- ・健康課題の多様化等に伴い、養護教諭など学校保健関係者の一層の資質の向上が必要である。

対策

- ・学校保健安全計画の適切な実施、運営・指導者の資質向上
- ・学校・家庭・地域の連携強化
- ・健康教育の充実
- ・学校保健における調査研究の推進

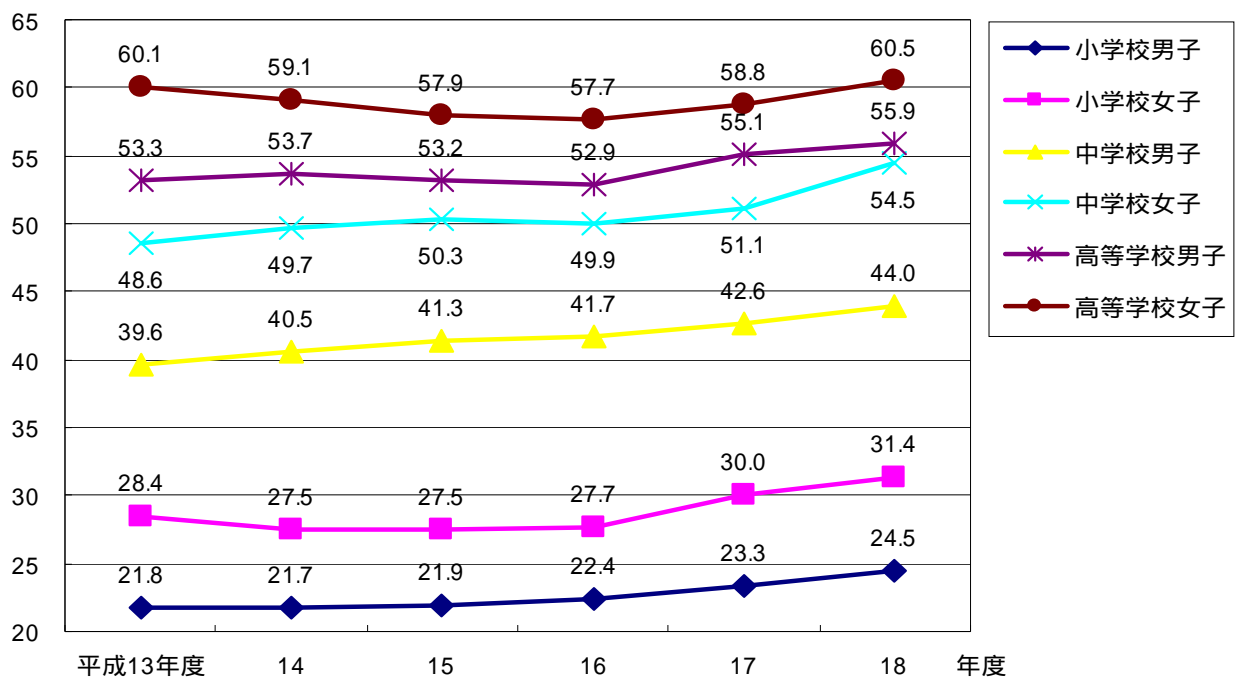
< 現状と課題 >

裸眼視力1.0未満の児童生徒は、平成18年度は17年度と比較して、全校種、男女ともに増加しています。

また、5年前の平成13年度と比較しても同様に増加しているため、減少させる取組が必要です。（図-1参照）

割合（％）

図 - 1 裸眼視力1.0未満の者の年度比較



資料：山梨県小学校・中学校・高等学校児童生徒健康実態調査（H18年度）

肥満傾向の児童生徒（ローレル指数（ ）160以上の者）は、平成18年度は17年度と比較して、小学校、中学校の男女及び高等学校女子は減少していますが、高等学校男子は増加しています。

肥満傾向の児童生徒は、将来、生活習慣病になることが心配されるため、減少させるように取り組む必要があります。

児童生徒のう歯の罹患率は、平成18年度は17年度と比較して、全校種、男女ともに減少していますが、さらに減少させるように、引き続き取り組む必要があります。

アレルギー疾患のうちアトピー性皮膚炎の児童生徒は、平成18年度は17年度と比較して、全校種で増加しています。

アトピー性皮膚炎だけでなく、アレルギー性疾患全体への取組が必要です。

保健室登校の児童生徒は、平成17年度は16年度と比較して、中学校、高等学校はほぼ横ばいですが、小学校は増加しています。

保健室登校の原因となっている心の健康問題の解消に向けてさらに取り組む必要があります。

平成17年度において、中学生、高校生の喫煙状況について、毎日喫煙する者の率は、中学生では3年生男子が最も高く3.4%であり、高校生では3年生男子が最も高く4.4%となっています。

いずれも全国を下回っていますが、喫煙を防止するための教育等に今後も取り組む必要があります。

健康課題の多様化に伴い、養護教諭など学校保健関係者のより一層の資質の向上に引き続き取り組む必要があります。

[用語解説]

() ローレル指数

児童・生徒の栄養状態の判定に用いられる指数。

体重（グラム）÷身長（センチ）の3乗×10の7乗

< 対策 >

1 学校保健安全計画の適切な実施、運営

健康診断、健康相談実施後の適切な措置がより一層行われるよう推進します。
学校環境衛生の維持・改善がより一層適切に実施されるように推進します。
学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び学校保健関係者等による専門的な指導体制の整備により一層努めます。
学校保健委員会の設置促進と活動の活性化を図ります。

2 指導者の資質向上

研修会事業を引き続き実施します。
児童生徒に対してよりきめ細やかな対応をするために、経験の浅い養護教諭や養護教諭未配置校に経験の豊かな退職養護教諭を派遣し、現職養護教諭の育成及び支援体制の充実を図ります。

3 学校・家庭・地域の連携強化

多様化、深刻化する児童生徒の健康課題に対応するため、地域の専門家や専門機関との連携を強化し、地域全体で学校保健活動を推進する体制を構築します。

4 健康教育の充実

薬物乱用防止教室の開催を引き続き推進していくとともに、今後は専門家(学校薬剤師等)を活用することにより、飲酒・喫煙・薬物乱用防止教育の充実を図っていきます。
また、栄養教諭、学校栄養職員等による食に関する指導の充実をさらに推進していきます。

5 学校保健における調査研究の推進

引き続き児童生徒健康実態調査を実施するとともに、その報告書を作成し、保健教育の参考資料として活用します。

< 指標（数値目標） >

目標項目等	現状	平成24年度目標
児童生徒の肥満児の割合	6.2%(H18)	5.0%
研修事業参加者数(養護教諭研修会)	302人(H19)	330人
薬物乱用防止教室実施率		
・中学校	46.9%(H18)	75%
・高等学校	90.6%(H18)	100%